

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「安心・信頼・満足」を掲げ、入居者・地域の方々からも安心出来る場所・信頼できるホームを目指して。		地域の中で暮し続けていくのでどのような関係を地域と築いていくか理念に盛り込みたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、夕方に全職員で理念を言う、安心して暮らせる場・信頼と満足を得られるように理念の実践に向けて取り組んでいる。		地域密着型サービスの視点を加えた理念を作りあげてそれを全職員で共有し理念の実践に向けて日々、取り組んでいく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会議、及び地域運営推進委員会に理解してもらえるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に加入して、入居者と職員で地域の広報紙を回覧しています。日常的には、散歩や買物の際に挨拶を交わす関係ができています。また地域の行事(小学校の体育祭、町内清掃、花火大会)への参加や地域ボランティアの受け入れなど、積極的に地域との交流を図っている。また運営委員会では、多くの地域住民が参加し高齢者ケアに関する情報提		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している、職員及び利用者は広報を回覧したり地域行事に参加している。また地域住民が事務所の行事に参加したりボランティアを受け入れたり地域との交流を積極的に努めている。		運営推進会議では外部評価への取り組み状況や評価結果についても報告していきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の民生委員に声をかけて町内の行事で手伝えることがないか常に声かけしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で意見をだし検討を重ね、管理者が集約した。自己評価により日々のケアを振り返り、見直しの良い機会ととらえ、自己評価を活かし取り組んでいる。また、前回の評価結果を受け改善に向けて取り組んでる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会は入居者・家族(9人中5～6人)・地域住民・民生委員・地域包括支援センター・職員の参加で開催、入居者の様子・行事報告を行うと共に、身体拘束・権利擁護・後期高齢者医療制度についての情報提供を行っている。時には日本舞踊、尺八の演奏などを行い、交流・ふれあいの機会を作ってる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者ケア・制度に関しての相談や判断に迷うような時には、市の窓口と相談できる関係ができています。また行政の協力により、ボランティアの提供を受けている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての資料やパンフレットを準備し、ホーム内で職員対象の学習会を行っている。また、必要な方には、制度について説明できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議で身体拘束委員会を行い虐待防止に努めている。また定期的にアンケートを取っている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時は十分な理解を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議にて話せる場を設けている。		不満、苦情を言いやすいように家族とコミュニケーションをとっていく。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、ホーム便り「なかよこよし新聞」を発行している。家族の来訪時には、入居者の暮らしぶりや身体状況など話し、金銭管理については出納帳を提示し確認するようにしている。緊急時や状態変化の場合は、電話連絡をするようにしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は家族会で意見や意向を言っていたるように取り組んでおり、日常的には来訪時や運営委員会の際に、家族とコミュニケーションを図ってる。また日頃か様々な意見や相談などを言っていたるように取り組んでいる。入居者・家族から出された意見や要望は運営に反映していくように取り組んでいる。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を開いて職員や提案を聴く時間を設けている。		職員が積極的に発言できるようにしていく。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望に柔軟な対応ができるよう必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム内外で職員一人ひとりゆっくり話ができる時間を設け、ストレスケアを行うなど職員が働きやすいように努めている。やむ得ず職員が交代する場合は、引継ぎの時間を十分にとり入居者に不安を与えないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されているようにしている	職員採用に関しては、年齢・性別など基準にしていらない。高齢者に対する基本的な接し方や協調性を大切に、意欲を持った人を優先している。また職員一人ひとりのスキルアップや自己実現(資格取得の機会)に向けての協力体制も整えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する内部・外部研修に積極的に参加している。「公正な採用選考に向けて」というテーマで内部研修を行ったり、高齢者だけでなく、子供の人権・障害者の人権・同和問題など幅		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が内外の研修を受ける機会を十分確保している。特に人権・成年後見制度・認知症などに関する研修に積極的に参加し、資料がファイルされている。参加できなかった職員にも必ず伝達し、研修内容を共有するようにしている。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流を行っている。管理者と職員で、相互訪問や見学実習など通して、サービスの質の向上を図ってる。今後、合同の研修会の実地を検討している。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスをい軽減する為の工夫や環境づくりに取り組んでいる。		環境づくりの回数を増やして行く。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	状況により自宅、病院、施設など出むいて本人自身から話を聞いているまた受け止める努力をしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間があれば事業所に来訪していただき話を聞いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け時に必要としている支援を見極め他のサービス利用も含め対応に努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば、体験入居が可能で本人・家族が安心して入居できる体制を整える。体験できない方に関しても家族と共に見学し、食事やお茶の時間を利用してホームの様子を見てもらうようにしている。また状況に応じて入院先の病院や自宅を訪問して面接を行うなど、本人・家族が納得して入居できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者は、朝食の準備や買物の手伝いなど、その時その時の状況に応じて、入居者の力を発揮していただけるように取り組んでいる。日々の暮らしの中で、入居者に気づかっていたり、入居者と職員が支えあう関係を築いている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪したとき本人の様子を伝えて、困ったことがあれば時間を取って話し合ってる。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の本音のことに気づいた点があれば家族に報告している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者、本人に馴染みの人や場所を可能であればその場に連れていく。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し定期的に席替えをして利用者同士が関わり合いを持てるように職員が見守り声かけを行っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても自宅に電話したり遠方であれば手紙を送り付き合いを大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者とゆっくりと話せる機会を作り、意向や希望を把握できるように努めている。意思疎通が困難な場合は、表情や行動で読み取るようにしている。また情報収集シートや家族の協力を得るなど、入居者一人ひとりの思いや希望にそった暮らしができるように取り組んでいる。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式を用いて一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過の把握に努めている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>グループホーム会議で一人ひとりの現状を総合的に把握できるように努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当会議にて、本人や家族の本意や希望を把握し、一人ひとりの状況(業務日誌の中に記入された入居者本人の様子など)振り返り、総合的に分析し、入居者の状態に応じた介護計画を作成するようにしている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>2ヶ月1度スタッフ会議を行い、3ヶ月毎に計画の見直しを行っている。また入居者の状況の変化によって随時見直しようにしている。主治医との連携があり、在宅介護計画書により、入居者の健康面の管理が行っている。</p>	
40	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録をもとに1日2回の申し送りで情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活用している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	年1回、職員・入居者と共に一泊旅行に出かけるなど、年1回の旅行を実地している。また、運営委員会は地域との連絡を図る機会としてとらえ、ユニークな企画により参加を楽しんでいただけるように取り組み、グループホームならではのケアの経験や実績を活かし地域福祉に貢献している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて地域資源を活用している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他のサービスを利用するために支援するように努めている。		本人の意向や必要性に応じて努めていく。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて地域包括支援センターを協働している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医が受診できるように支援している。受診や通院は、本人や家族の希望に応じて対応している。家族同行の受診が困難な場合は、職員が代行するようにしている。また2週間に1度往診があり、適切な医療を受けられるように支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に専門医療機関にかかり相談および助言を受けられるように支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度、往診時に看護職員と気軽に話ができるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院期間中、病院関係者と情報交換を行い相談に努めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルに関しては、概ね説明している。また家族の協力もあり医療と連携しながら受診してもらえる医院もあるが、今のところ病院を希望される本人や家族が多い。ターミナルの具体的な検討が期待される。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所で「できること、できないこと」と見極めまた変化に備えて検討や準備を行っている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、本人、医療機関と十分な話し合いや情報交換を行い住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、入居者の誇りと尊厳を損ねないように言葉かけに注意している。個人ファイルや記録類も、他者の目に付かないように事務所に保管・管理されている。トイレ誘導など本人がはずかしめを受けないように言動に注意している。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の時間を作り、ゆっくりと話せる機会をもうけている、その際本人の思いや希望を表せるように働きかけている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方ではない。起床・散歩・外出・買い物など入居者の希望にそった個別の支援を行い、入居者のペースを尊重したケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が望む洋服に着替えたり本人いきつけの美容院に出向いている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備や配膳・盛り付けは声かけし、入居者になるべく行っていただくように支援している。入居者の中には、自らの役割として、エプロンを付け厨房に立ち、手伝いをされる方がいる。食事は庭の菜園で栽培した野菜で料理を行うのなど、食事が楽しいものとなるよう努力している。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめる支援をしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	声かけを頻繁にして一人ひとりの力や排尿、排泄パターン、習慣を活用して気持ちよく排泄できるように支援している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室の大きな窓から、浴室専用の庭園が見え、気持ちよく入浴できる環境となっている。入浴日の設定はるが、入居者の希望に合わせ、毎日、入浴できるように支援している。拒否される場合は、無理強いをせず様子を見ながら促すようにしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	頻繁に声かけをし安心して気持ちよく休憩したり眠れるように支援している。		
を				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴の中から興味を引き出し、生きがいのある暮らしを支援している。入居者にはこれまでの生活歴を活かし、庭の草木の剪定や畑の種まき・配膳の盛り付け・掃除・買い物の荷物持ちなど、入居者がその人らしく暮らすことができよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には自由にお金を所持したり使えるよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や天候に配慮しながら、毎日散歩に行っている。週2回の買い物や外食・ドライブ、年に1回の一泊旅行などが計画され、外出や旅行を楽しんでいただけるよう支援している。また、近隣の方と関係ができていますので、旅行中の留守番や散歩中の見守りなどの協力が得られている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎年、1回利用者全員で普段行かない所に日帰り旅行や旅行に行きます。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が家族や大切な人に代わって電話をかけてつないでいる、また手紙のやり取りができるように努めている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの人が来訪されたときは安心して過ごせるよう状況により場所(リビング、自室)を提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開き職員全体で身体拘束をケアに取り組んでる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。日中、鍵をかけることはない。入居者の外出の傾向を察知したり、帰宅願望の強い方に関しては一緒に外出し、納得されるまで一緒に外出するなど鍵を掛けないケアを実践している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して利用者や様子を把握し安全に配慮して必要であれば声かけしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者、一人ひとりの行動を把握し状態の応じて危険を防ぐ取り組みをしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年に2回消防訓練、年に1回救命救急の講習を開き事故防止のために知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでる。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時には提供している医療法人に連絡をし主治医の指示を受けている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署や地域の方々との協力を得ながら、防災・消火訓練を実地して。また救命救急講習を開き、事故防止のために理解を高めてる。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会議にて話し合ってる。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に主治医の指示を受けてる。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬担当の職員が処方される薬の目的、副作用、用法について理解しており服薬の支援と症状の変化の確認に努めてる。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	主治医の指示により便秘予防の為の飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	見守り、声かけをしながら一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。また、週一1回の訪問歯科の住診も受けている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量は、1日1300～1500calを目標にしている。メニューは、入居者の希望を聞きつつ、医療情報や主治医の指示などを参考に作成している。また職員も一緒に食卓を囲むことで、入居者一人ひとりの食に関する状況を把握している。		水分摂取量の記録をもう少し整備していく。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対してマニュアルを作成している、また予防や対応の取り決めがあり実行している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを作成している安全な食材の使用と管理に努めている。		
82 (1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を置くなどして明るい状態をつくり努めている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天井には大きな灯り取りの窓があり、開放感溢れる空間となっている。共用空間には、至る所に季節を感じる花や入居者の作品が飾られ、キッチンから食事の準備の音や香りが漂い生活感がある。窓に付けられたロールカーテンや空調機によ、居心地よく過ごせる空間となっている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファの配慮を工夫して利用者一人ひとり思いおもい過ごせる工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみのある装飾品・家具・仏壇・写真などが持ちこまれ、一人ひとりの個性ある部屋になっており、安心して暮らせるように環境づくりに配慮してる。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に窓を開けるなど体温調節は温度計を置くなどして調節に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に手すり、腰かけ、椅子などを設置して安全に自立して暮らせるように声かけ、見守りを行い支援している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者、一人ひとりを細かく観察し自立して暮らせるよう声かけ、見守りを行い支援している。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑いじりを楽しめたり玄関先で行事等ができるような空間作りをしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

月に1度、外出の時間を設け、入居者2名を1人のスタッフが付き添い、買物や外出に同行し、地域社会とのふれあいを、体感して頂いております。